



特別支援教育の充実に向けて

白水台地の陽光「さん」



本県における特別支援教育推進の基本姿勢として、「同世代の子どもたちが、共に生きる社会の一員として互いに尊重しあえる関係をつくるために、すべての子どもたちを大切に、1人1人のニーズに応じた教育を行うことが大切であり、本県においてもこの視点に立ち、特別支援教育の推進に取り組んでいきます。」ということが、県教育委員会から出されています。また、文部科学省からも、特別支援教育の理念の中で、「特別支援教育は、児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒1人1人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものである。」と述べられています。

上記のことを受けて、県・市・町が主催する特別支援教育の研修に職員が参加し、専門的な知識を身につけ、実践的な指導力を高めています。本校においても、毎週木曜日に、「子どもを見つめる会」を設け、全職員が、1人1人の子どものことを深く知り、共通理解を図ると共に、支援方法や体制づくりに生かすようにしています。また、先日は、「1人1人の違いを認めあう学校づくり」という点で話し合いを持ちました。今の学校・児童の実態について出し合い、課題を解決するためにどんな取組を行うかについて話し合いました。それを基に、各学級での取組を進めているところです。学校教育活動を充実していく上で大切にしていかなければならないことは、地域の支えと、保護者の理解と協力です。現在、県・市・町からの特別支援教育に関するチラシやパンフレットが出され、随分理解も進んできています。1人1人の子どもたちの、現在及び未来を考えながら、家庭と学校と連携を密にし、信頼関係の下、「特別支援教育の推進は、1人1人の違いを認め合い、全ての人が生き生きと活躍できる共生社会形成の基礎になる重要なことである。」このことを、学校全体に広げるために、各学年の実態を考えながら、全職員で特別支援教育の充実に努めていきます。

チャレンジタイム

毎週火曜日の朝自習（15分間）で、今まで学習したことの復習や発展問題を、1人1人のペースに応じて行っています。自分で選択し、自分の力で考えて問題を解くことで力がついていくと思います。学校でも、家庭でも、自ら学習に向かい、自ら考え、課題を解決していくことは、これから生活していく上でとても大切なことです。学習の意義や、やり方について、今後も伝えていければと思います。ご協力をお願いします。



(みんな真剣にがんばっています)

環境委員会の取組

各委員会が、目的をもって取り組んでいます。その取組を、集会で劇にして発表したり、ポスターを掲示したりしています。環境委員会は、ISO宣言をみんなに呼びかけ、ポスターを掲示しています。このことにより、節電・節水の気持ちが高まったり、気づきにつながったりしています。家庭でもこの取組が広がることを期待しています。

